千社の参詣記 二へん 上

へ 13
3167
4

へ 13
3167
4

昭和九年
九月二八日
購求

岩井蔵書

海の内海紀行叙

雜記

四海浪静

旬五日

霞と霧と霞と雲と霧と霧と霧

[illegible]

備後と贈り和歌をも[illegible]

心のあつまる所を[illegible]雅因う答ようを

[illegible]

[illegible]

内[illegible]の[illegible]

偶中の[illegible]侍也。[illegible]後編[illegible]

[illegible]の[illegible]。方今[illegible]

[illegible]も[illegible]掃[illegible]。[illegible]

[illegible]

[illegible]

文政己卯陽

十返舎瓦誌

雑司ヶ谷鬼子母神の景

清響

二冊

第一章

第二章

第三章

第四章

第五章

第六章

八正

堀内詰後編 雑司ヶ谷記行

上編

東都 十返舎一九著

第一章

仕形咄ふ法の巻草

春迎ど酒屋の拝

清經のうちふ法華經の初徳。廣大なるとりつて言祖

日蓮上人此一宗を弘めるひしーとう取来次第ふ流

布して未世の今ふいたるまで。題目の題長くつて

自永浮佛の愛元ひろごりて。東武法の門の繁昌

飛ものかつる弊ひるの見べ。まーてや者の產こう產
駕ゐてとそ世。掃溜れとりこる鶏の巣雞ごけそもあと
そとば。彼鶏れとぢ蓋の史婦づ見ゐ見べ。猫の抄を
ゆ見を拾ゐ木こゐーて系猪えば。これ神田の八丁
堀防面屋弥次郎長こ。さるりぢーの位牌長
家つの伝者ゐて。月ちりのゐりと雑くてや下向
のこちすぐう或酒屋れぢっとこりて
めんゐ世人 酒屋「アイ お出るさい。おそうござりまーこ」

酒と一合と肴い何ぐゐます 男「ハイ鶏の胡りと煮ゐ
芋の煮ころぢーでござります」 客「そのいのぜよろこ世」
ぢりこんゐ世人 酒屋「うこまりまーこ」
男「どんゐあのゐいおめ
れれ。のこうけこゐれ。ゐこうこ。ゐれ
ゐれこれ。ゐこうこ。ゐれ
ゐれこれ。ゐこうこ。ゐれ
ゐれこ

一ぜんめし
五酒香
猫は居眠

雑子形を所例所に夕日に舞
乙巣
机
英雄

まつりごろう。ちどまろうるの「あやまるとこたいかの
あろう」「あるこまるものとりてる。ソリヤ結合の面白く
さたれ且那。久人をまさ江戸ろう客が多がぞのの
酒を一杯やつて豆のうる和あやアるの
代ものまえの拝ものあるのでもりの名い男ざ「イヤそ
ぜんべとおもつてもの。久人のぞりを。現物ありて来
さ「ヲ現金あるべつのでやろうトとりをあくひ酒をつぐ
ぜん「ちやびしこたいてこんろう「まさかすりやアざる」

アあの酒ど。座敷でこのの間の酒ちざこでも弾判ざあの
ぜんさ。且那あつうう金ざ出来るぜん屋の「弾判ざ
名いろ。ソリヤ嬉しい「ぜんでも今和。変のこん世の土産
ばかりあるぜん屋のアいめでさくくのあれ
さあよ。枝も栄て葉もえざうトかどうざとりを「
コリヤくぜんく。残をあのて。あぜいろあの「ホニそうと
くあらアいつも通ひでりてくれるつてさ。ドレく
残をおろうトこのこうむーろうおろたまろせバ「ぜんまる。残をあのう「ハテ

ふしぎなる。こうこ今ふしぎなり。八百七年さのぞ。八百
年さて。出来るお茶とメるのとしぞ。そのとたちの
と。鶴のそんゴ年百七年さ。今ぞたおとそこそこ
イヤくそのまちゲるの。その徳利とこうちんおこ屯
そそ百七年つまこうるのいそこうちの
ぞ。いつでも徳のあるとたい和へ買おやく。酒ぞるのと
あこぶうちと。こうおう世ぞるやアるのいう「十二余江で買
ふあう」「そ百七毎日酒とこうおこうりのぞ氏比ゆ

日来るの。よりや酒とのまびるあわやアままの「ごんせ」
ゆア氏比ゆ日来るんぞと。ようそ屯こうとおりつそこう。氏ゆい
うちの祝こうの徳とーそ。堀町の祝新元へ比ゆ日酒ぞ
おいつこうこう「そこう」。そんるこう芝居とうこそでまう
う。おりあうこう。物とまるまるーそこうせトまるまるの
いぞ氏比ゆんせこうんぞ「イヤモ動屯の菊屋町のうんぞ氏
つけこむまうまあそ
ちこうおゆまこうゆ。おゆ芝居好ぞこう。まるーん
こうせこうゆ「三洋の帝屯帝ゆ物とする「イヤ

家のうるうち云まぼ幸と菓子幸がめ目の不「
そのつきぞーもく「ちぶ色てさう世よくう。あうー義
ゆーもそるさあやア。面白くるいひとりでい出来るい。お
めくをちろうとおもふ事る。おめく菓子幸不ありるさい
そうちうとうんむいもひぞうもそある不ぞ「ヨット呑んざ
ぞん七「そんざく。うちうとひくまのぞ「コリヤそ面徳利を
ぞめる「イヤ。ち目ぞ。うちちのけもおくのさそもまは
うう幸が新幸のあぞる幸湯でヤア菓さんあのうちうく

うちるアト「女ぞうの身ぶりとーもそ。その四そるをつくと
そのもそ「そらうのく背中不根ぞる
でもそある。そうとーもそ目「ヨイ不和ぞもそぞおめくを。
はんくとうりつける事ぞいもそ。ヨそんざく不でまはう
ぞ這出ーもそ菓子幸のううぞうそ「ヨイ各〻。おのぞうぞう
め。髭でもうつもやアぞる。月のおあもそ目「おあもそ目そ
相談る。きえぬうちいく「コレうさい男ぞ。りんおけ
そのん不「ぞんもれ「見うぞう行仏のしうぞ。物ぞ美しい男ぞ
る幸湯ぞ。抱つのもそある不をうもそある。うんあの女どもぞ

中ふるうて。息と云ふ。ぐうと月を吉と云ふ。

ぐうて屏風とト。ぐんたのぐうとさげて。きるとく。ト。ぐうぶとひねきを多くつねきりのぐうぐうきりて

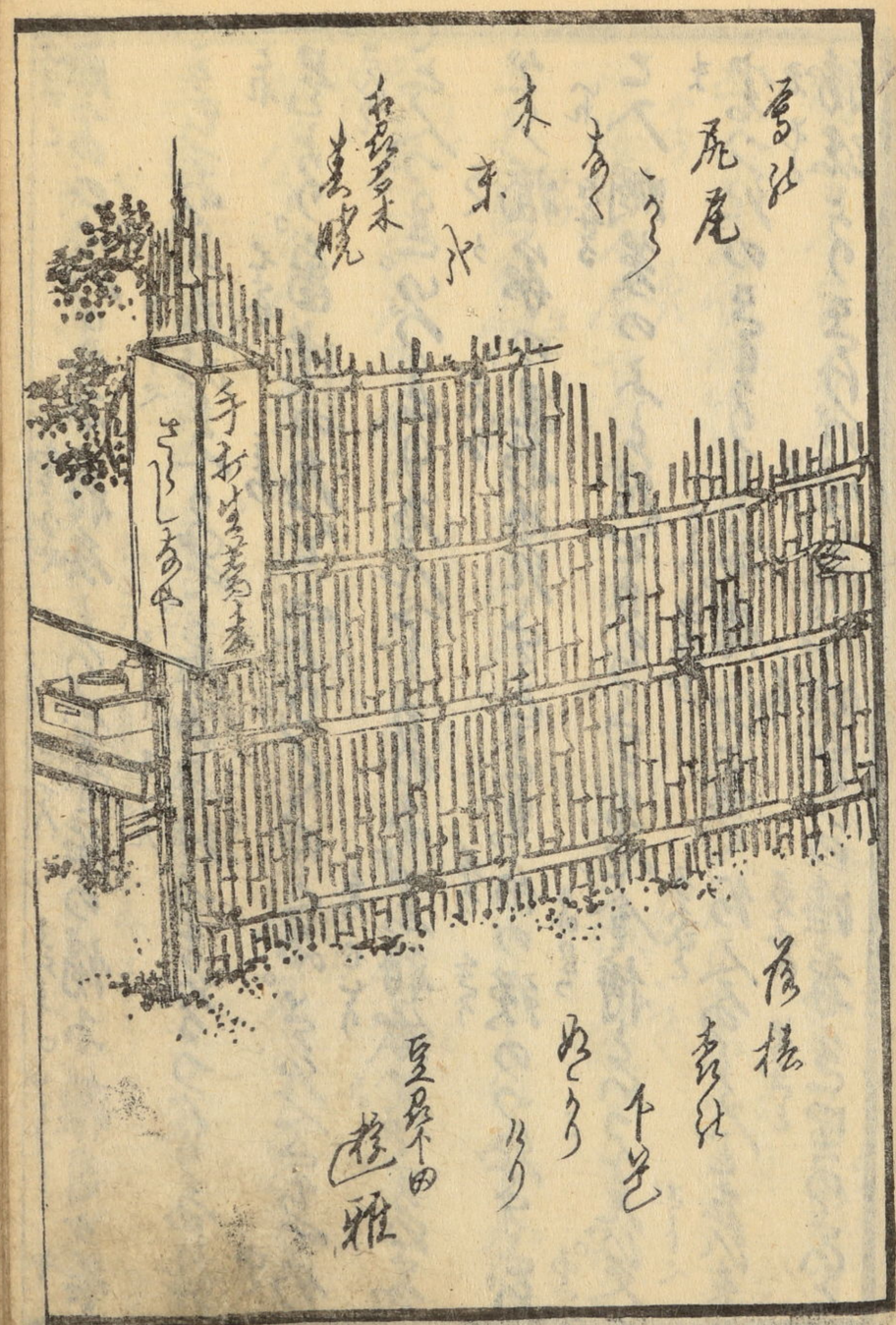
ぐうて。ぐみぬきぐうぬ。ぐうとぐうとうとて。

「コリヤどえいく「イヤきうりをひうりて

そんでおぐのいうう。こうちくのけておめて。そを且ぐうう。こつ

ぐうぐう。ぐうぐうぬや。ぐうぐうぬや。ぐうぐうぬや

梅さくや
小春作
門下
愚


手形生業者
後梅
雅

腰掛のそばに茶屋の婆とその女茶屋の婆。雑用が番
をもつあり。たばこ入れ。巻煙草入れ。煙草入れ
是より。道中の乞食どもうるさくゆくを。さるべきもの
こゝ人ぶる。いづれもたんべゝりの不。馬糞紙を敷てゐる
ぐゝ猫家の長脇差。白の猿のつれたるこゞ
こ入。烟草のふくろ。とりもちもち。金持ちもつたる人
宮つれのもまりゝ。商人でるく所人のゝんと長煙
清流よりをけば少ゝど。此あたりの清水をこゝのこと

持ちこゝ人ゝ多。（山門ひとりもちもの。呑者。ナント。おいらの高買。男名い酒を呑ちゆ）
ぐゝようでの。いけ船人おやゝ。ア。ゝ。ゝ人。そこ。不を年い米
の安い不。食せちやア。ぞこでも酒を落く逆ゝとゝ人ゝ
さく酒の利用ぐゝ人。ゝ人。ゝ人。ゝ人。ゝ人。ゝ人。
の差ゝ。ぞこ。ゝ人ぐ酒不酔ゝとゝ人。ゝ人。
無名とゝ人ゝ。ゝ人中。ゝ人。ゝ人。ゝ人。ゝ人。ゝ人。
ちやゝア。茶屋の婆。ゝ人。ゝ人。ゝ人。ゝ人。ゝ人。
やゝ安。ゝ人。ゝ人。ゝ人。ゝ人。ゝ人。ゝ人。ゝ人。

酔ふるつもり。浴衣のこんごうわたれ。サア
羽織とりなと首をひろうて。つぎ・とさうれん。
かまへの大分酔さそふな。何をいつまでも。
酔さうをあらましもの。酔れ人徒授い蚤和服とん
コリヤおいらんもどえいつと。今度不形とおりつぎの
立消ぎあるこ。そしておいらの扇ぎあい。松不扇れ
くのてある扇ぎ。おんな年取あんぐでいるい。さぐーて
上こせと。ふうをかぐのあるのい酒ぎ落いうう和酔ぎ

出れとこんをえる。あんでもう今度うう。あ人不云ん云をいちい
とおりふるう。おりひ且酒い酒とあるつけて。除せうぐいう
ヒト名とぐたとのかこうち
ヒ名ぐ人ちイヤくこい酒もようつろーしぐ
ヒ名ぐ人ちこせ飯でやあの流れ さんぬ。おーねぐるめぐ
あつて。和川の紅毒とのんぐうてたれ。ふくさく酒とさう
てりうつて。何ぐあ人を酔せよんと吸ぬ徒でおうう
うみこ石ぐ。きうくおあとおいらぐさこえいたつて。
側まこ後で一度一角づ。後義ぐ和ことの人側うう

おいらとゆかこーさそんぐろ。酒のかうげで。作者ぐ
ろくて。行角兵ゑいふえづのあてぐちづつさえ。狂義
ゆ黄ひぞとろつさろ。性きろねえめホ。あつぐでやア
ねえイト いふと今ひとりの ぐちの「そ」且アろりさきろつし。氏あつぐ
米耕さんと。河原へろやと且ホいつさホぐ。いつゆ祢ホ
つ且そぐろ。兵金ろつんやろぐ一ホホいつさぐ。おうろう
さ。且ホホおろさて買てりろて。家へそいつさホぐ。ちの兵ろ兵
金ろつんやろぐ。ごうぐさホやろりあ気どりて。風俗ろて

ゆちやんと。さまろつて兵分ゆ去ろホのねえ新ぐろ。狂
おりーろつさ。ちろ女弟ぐ兵金ホいつんあ。ナントおえさん
ぐさア。月ゆ肥てあさろろやろー。ちゆ肥て長さ川
ろやろとろつんでざんまろろ。ろんろ死来さろて。
あぐああゆ分ゆうえあのいあんなんちめー。女弟ゆ
中でおざん世ろし。さぐめおりろくゆ。ろんとゆあん
ろんちめ。さえ女弟ゆ元ぐ兵ホいつさて。まさろ林
ろつホ。狂ぶとゆいいまろんまえー。ホニて且ろりろく

くんでもの抱てわるんちゃうがるもの
がをまつもの。よさそうなるものざんちと。あつちこつち嗜さ
まて。あつちのさつちのものうば。そまはそのおあ弟ぎ医
こつこつこつ。会金のぎふぞーて。ちこつまつちすつりのぞか
りつかつく。こたこけとおがまの女弟のりくまのんん
あこぎふとのおめのくんをこをこつこつこて
のひとつねがひがおざんす。そのそたおこなんん。弟のるのぞのか
ぎんせんぎ。ちこつの布へひさつく来るんーこまあ人で玄指

さんとりめおを者さん。場さんだおざんーこぶ。ぞちのたこ
りつをこつこつふ。そのおこつこふ物いーて。年がのこつ。女房ふ
あこたのりでおざんーこぶ。代玄紙死をこるんーこと。
そこまをこつと怨ーくて。いまぞふまこおこつこのこと
こつまこんせんで。月のこふちこつこだおざんす。黒い
ふ袖ひとつ。そのこつおこぶ。かあてのたるんーこつこつ。そこをこを
おめこさんが若あんーて。こちこつが玄指さんとやいーこつ。
あいくとおめこさんが。逸るをーるんーて。まぞるのこつこるの

刀をあげやいもう。らうそくと場さるれるりるん
あて。うとうを抱て拵ておんなんあんちと。そまとをおまえ
さんのんはせわ。ぞんとまをれわりのふうう。ナントそんん
あて。おんなんせんうとのよ。そこで金のんぞのコリヤ
大切のうをを出るぞう。あううの人の形わるうて。女郎の
持あちびわるうそうるあ。あう〜家で自由れるうう
とう。とのつふうまるとう。ちううとのうあ。場をわる
まいちと雅源。あとぶつまう〜わ人あぞと。名出わわち

わんで。ぞるわのつとつのでわ。旦那のぞう〜人形のうとわ。ぞ
酒の宴中。旦那のことをうまて。コレハおりうの金
う如郎買うう。場をわるうて。ぞるのうのうぞ
ト場をわるり貸とおまう金るるやうう。ぞでそん
るうとう。のう旦るうう。怨ゲ歩て。ぞんぞナあぞ
さまとうう。おまびとうて利ちのうとうくナあ
金ぞと。利刀をとうよ世。おのうわそうて宵まと。米
利さんうう者分の利貸で。そうくおのうゲ金めを

場主ホーてやうさとかりいつし。そは三ぢうう三金あるそのを
医者どのくのつのこ。まいホ袖をきた。女房元ぐ云
指さんとりふと。ライくといつた。そのうりそうるるのてう
ことりのてことりいふことでう。あうる紙ホあつて来料さん
ぐ。三金のまうるをうんた。ヲやくそは三ぐ。ぐーこまうるごと
所をつぐーるさうう。一紙指絵をうるーた。場主ホあり
貸作あのか約束とりふと。は紙まうこ所のありこか法
さは三いつかはぐそんるることを。氏俗ホうの強るこ。いうれ拒ホ

るのはぐとそ。十あとりふるる。ぐ三るとりふこぐあるるりっ。ヲヤ
酒のよぐ。行をいつこう来うれ人ぐ。まめ一ゆまうこ。生涯のの
いうことことを来ホーて。場主ホるるゆちるぐ人こうのぐく
るこをーーこと。真のまりゆまうるさあこてこ紙付。三金ゆ
ホ明。おうげと義う具紙のるる。つよくねぐうこまのせん元
恵ホるるて。場主天宮をを根げホ紙まうーるぐう。る
うりくと涙をこぐ。ホおうーうつこぐ。落い酒ゆ法酒
ゆ。あこるあアるうれ人生涯ゆ。場多るこ。あい本指こぐ

ぶん。まこと損のいくさとなつた。本性をこぶかうし。まつく今階
のあるく人あやゝ油断をあらうれば「ソリヤアまづ。おいくさう
ろまーど。おとろのこどぐ。光めとちぶいつやくゝ向ふまで
あつことしつゝ。新ぐちわいくさの傷ぶ。ぐくさぐつたる
弾薬屋のあるく人。油断の毛ホ解がまるで。まんだらう
ど。いまさらどあるくのと。中村へきりかやつて義者
やあどり。むせうれくつせと。ナント代場代ぐ三十年
あるぶ。あるまを幸あるあるくあるくあるくあるくあるくあるく。皆くつて
ぶ。慶英とやる。惟ぞくつくくく

その九つ。この宿のあるじ。唐がらしをひとつづゝ入れて。三度をこゝ
ろゝとあとに。はぜんぶりで肴を一口。酒と一口そのんで
のみ。今度いろ〳〵ごと。小判一まい出さるゝ。雅楽人
そのうちのあるじ。金いろ〳〵。そろ〳〵ばりくらゝ
ませぬとのふと。若人のいふ。ナニ三度ものめられ
ぬ人とあるめう。お豆のうゝうてゝ。せるとの事。
そんのう豆腐あぶつてはうゝうドませ。コリヤおりゝうい
今度もうのふゝて。りゝお豆ぶうゝるんぶるゝ。

そのんぶをのふ。まゝ。独らぶゝうゝ。まゝ。なげ
まゝ。ぶゝ〳〵。ぶのふゝて豆腐のゝうゝ。宿のいゝ。
うゝぶゝの若ゝでゆぶるまゝのふ。そ豆ぶゝゝまぶゝう
まるゝ。コリヤ小判一まい。ぶゝうゝ。ぶゝゝゝぶゝ
ゝのふゝてゝる門ぶゝゝを。ゝゝと。ゝゝゝゝ。
ゝゝ宿のゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝぶゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。
あとゝぶ。ゝの井ゝ。ゝと酒ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。

考証
稀城
ぬけて
ちるこう
平
重蔵
こう
天刀斎中
笑山

このこゝろおもうこゝろ。やがてその井でめのさけのイヤこゝ
めこんどゝおもうてゝ。ゝ泉のゆうどうさわんこゝ。
ゝみゝおしこゝをあよこゝ。ゝこのゝ。ぞうごんうと思ひ
悲こゝろうと世ぐむ。ゝこのゝおこゝめの武分とごこゝ。
こゝ。ゝ門源おゝこゝ。ゝこゝとゝうこゝのこゝうぐ。イヤくこゝ
ゝうゝわゝぐ。こんゝうゝこゝうぐゝわゝ。ゝこの二ゝいこゝこゝゝと
の二ゝいゝこゝのゝゝ勒こゝこゝひくぐ。コリヤく出家こゝ。ゝ
ゝゝゝの勒ゝこゝゝこゝ。ゝこゝゝこゝこゝ。ゝこゝこゝこゝこゝ

一度のゝこゝ。ゝ笑ひこゝゝゝ。自分ゝゝ。ゝ
こゝ。ゝこゝの動くゝゝ。ゝこゝゝゝゝゝ新のゝくゝ。
ゝこゝ。ゝこゝ。ゝこゝゝのひこゝゝ。ゝこゝのゝこゝ
ゝこゝゝゝ。ゝこゝゝこゝゝ。ゝこゝ金と
ゝこゝ。ゝこゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝこゝゝこゝ。ゝ。ゝこゝゝこゝゝ。ゝ
ゝこゝ。ゝ。ゝこゝ。ゝこゝゝこゝ。ゝ
ゝこゝゝこゝ。ゝこゝゝこゝゝこゝ。ゝ

世ゝのやうこの物日あるあつまりあ
つまりあるこゝろあるこゝろあるこゝろ
をさゝるこゝろ。人ゝ者共もづうい。ものこゝを
ろぐゝこゝ人。いづこの藝あり。猪ゝ。何ひとつ好をこゝの
をあり。兵酒をよくのむこゝ。拵ぶこゝ退屈しゝ。
あさ藤がこゝたとゝづうい人ゝ。後拵こゝるこゝ
ひとゝ。かりこゝあこゝ過こゝ。人の異ゝ女房こゝ
しこゝるこゝ物を料理がこゝひとゝ。こゝやこゝこゝ

つゝ引かうこゝるこゝ。人のやゝるゝどゝ。好物こゝ
金。今まゝの男ゝ。よゝこゝがらゝこゝ。外のこゝ
あひゝ男ゝ。こゝのちゝくこゝ。仲の町の金こゝ
考こゝ。こゝ者ゝ者こゝ。こゝめゝ。こゝぬくゝりの
こゝゝぬゝちゝ。ゝひゝ。ゝ物ゝのひゝこゝ者こゝ
つゝこゝくゝ。こゝゝゝどゝ。こゝこゝが拵金のこゝ
こゝゝ世界いひゝ。こゝこゝこゝこゝこゝ
ゝゝゝこゝこゝ。こゝ男ゝこゝこゝ

雜司谷記行上冊終